

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野県長野西高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者	1年生（1, 2, 5, 6組） 160名 2年生（3, 4, 5, 6組） 161名
3 展開の形式	（1）学校における活動 <input checked="" type="radio"/> ① 教科名（ 体育 ） <input checked="" type="radio"/> ② 行事名（ パラスポーツ体験会 ） <input type="radio"/> ③ その他（ ） （2）地域における活動 <input type="radio"/> ① イベント名（ ） <input type="radio"/> ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピックスポーツを実際に経験することで、パラリンピックへの理解を深め、興味・関心を高めること。パラスポーツの魅力に触れ、共生社会の一員として生活していく力を身につける。
5 取組内容	講師：加藤 正さん（他3名） 実施種目：シットイングバレーボール 車いすバスケットボール 最初に加藤さんによるそれぞれの種目の説明を受け、8人1グループで順番に種目を交代しながら体験を行った。 <シットイングバレーボール> 最初はレクリエーションバレーボールで試合を行った。なかなか座りながら移動することがうまくいかない様子であったが、後半には実際の皮のボールを使ってボールをつなげてラリーする姿があった。「ボールを落とさなければいいスポーツ」という加藤さんの冒頭の言葉通り、一生懸命につなげようとすることに楽しさを感じている様子だった。 <車いすバスケットボール> 車いすに乗り、4対4ですぐに試合を行った。最初は競技用車いすの操作性の良さに驚いている様子であった。次第に慣れ、パスやドリブルを行い、「全員がシュートを打ってみよう」という加藤さんからの言葉もあり、積極的に取り組んでいた。しかし、シュートが届かずに苦戦している様子だった。



6 主な成果

今回の2種目を実際に経験した生徒は少なく、ほぼ全員が初めて体験した。生徒達の中では、「楽しい」という言葉が多くあがってきた。また、普段は運動が苦手な生徒や怪我をして松葉杖をついている生徒も積極的に参加する姿があった。みんながやったことがない、ある程度運動が制限されるといった環境の中だからこそ全員が主体的に参加できたのだと感じる。

今回の事業を通して、

- ①パラリンピックスポーツへの興味関心の向上
 - ②パラリンピアン技術や体力のすごさへの理解
 - ③周りに配慮し、誰もが主体的に取り組むという共生社会の一員としての資質の向上
- が成果としてあげられる。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

今回は1,2年生での実施となったが、本校3学年では体育理論とあわせてシッティングバレーボールやボッチャなどのパラスポーツを今年度実施した。また、体育祭では全学年がボッチャを経験しているため、パラスポーツへの理解はある程度あると感じる。今回は用具の関係で学校内では実施が難しい「車いすバスケットボール」を経験させていただいたことが生徒にとっても教員にとっても充実した時間となった。

8 主な課題等	講座の人数と車いすの数の関係で、車いすバスケットボールを体験する時間が短くなってしまった。ある程度の時間を確保するのであれば小人数での開催が好ましい。
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も継続して、体験会を実施したい。 学年ごと種目を変えるなど、段階的にパラスポーツへの理解や取り組みを深めていきたい。また、普段の授業（体育、体育理論）の中でも実施していくと同時に体育が苦手な子やコミュニケーションが苦手な子へ対してのアプローチとして活用していきたい。学校設定科目の「スポーツレストラン」内でも地域の方々や障がい者の方々とも一緒にやる時間をもてるようにしていく。共生社会の一員としての資質を育てていきたい。